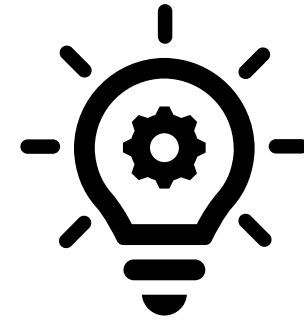


わたしがいるところを「ここ」と言い、  
横断歩道の向こう側を「そこ」と呼ぶ。

ところがどっこい。  
渡れば、さっきまでの

「そこ」が「ここ」になり、「ここ」が「そこ」になる。

わたしはわたし(ここ)から、一步もうごけない。

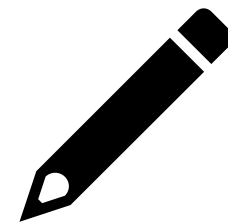


きっかけ感話  
【超短編】

vol.44

### 和而不同

『【秋なのにナゼ?】御堂筋の中央分離帯植え込みに謎のスイカ』。病院の待合室、ふと見上げたTV画面にこんな見出しが▼「スイカが直接車の交通に支障をきたすわけではなく、今すぐ撤去はしない」「見物目的の運転や歩道での密集は事故を誘発する危険性がある(ため探さないで欲しい)」。違和感とはこういうことを指すのだろう▼『ててて!とまって!』(作詞・さとうまさかず氏/作曲・サキタハヂメ氏/令和四年)という、交通安全啓発の歌がある。テーマは幼いこども(主に七歳向け)が信号機のない横断歩道を安全に渡るための心構えと行動。曲名通り『手を挙げる』ことがその基準とされている▼そうした所作自体は、既に周知の事実といった感覚があるが、実は道路交通法に基づく『交通の方法に関する教則』には四十年以上も『手を挙げる』という文言が削除(理由の根拠なし)されたままであった(理由(令和三年に復活)▼無論、こどもが自らを守るための教育としてこうしたコンテナは非常に大切である。ただ、そもそも道路交通法では、車は信号機のない横断歩道に歩行者がいる場合、停止線での一時停止が義務付けられている。見落としてるのは、人だけではなさそうだ。



若院コラム

『何度も読みたい広告コピー』

石本 香緒理 氏



WASHITE DOUZEZU

さいほうじを知る

